

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は、**2026** 年度(公財)日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。

2 練習について

(1)メイン競技場・サブトラック・雨天練習場ともミニハードル、ラダー等をレーン上に置いての練習は禁止する。

(2)メイン競技場での練習は朝**9:20**まで。ただし、その都度、係員の指示に従うこと。

(3)レーンの使用割り当て

・1～2レーン 長距離 ・3～7レーン 短距離 ・8, 9レーン ハードル(ホームストレートのみ)
(**8レーン高さ70cm 9レーン 60cm**)

※リレー練習で走路に貼る付けたテープ類はチームで責任をもって剥がすこと。

3 招集について

(1)招集所は、メインスタンド下室内練習場に設ける。(100mスタート側)

(2)招集時刻

トラック競技	競技開始	30 分前開始	20分前完了
フィールド競技	競技開始	40 分前開始	30分前完了

(3)招集所でチェックを受けた後、役員の指示に従うこと。

(4)リレーのオーダー用紙は競技者係より受け取り、予選・決勝ともに、招集完了時刻の1時間前までに1部を競技者係に提出すること。オーダー用紙提出後のメンバー変更は認められない。(決勝においては、決勝進出チームが確定したら速やかに提出すること。)

(5)その他

①招集所へは、シューズで来ること。また、スパイクは、出発地点で装着すること。

②棄権する競技者は招集完了時刻までに所定の欠場届を競技者係に提出する。

③2種目を同時に兼ねる競技者は、2種目同時出場届を招集完了時刻までに競技者係に申し出ること。
2種目同時出場届は招集所に取りに来ること。

4 競技の抽選及び番組編成について(レーン順)

(1)競技におけるレーン順はプログラム記載順序による。決勝のレーン順は主催者が決める。

(2)決勝進出者は上位記録8名に決定される。時間による最後の1枠に同成績がいる場合0.001秒で判定する。それでも同じ記録の場合、空きレーンの有無、または抽選により決める。

5 競技について

①トラック競技は全て写真判定装置を使う。

②競技者は安全確保のためにフィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)に従って走ること。

③リレー競技に使用するマーカーは出場チームまたは主催者で準備し、1人1ヶ所に限り使用することができる。マーカーは前走者が取り除くものとする。

④スパイクピンは2段平行ピン、平行柱ピンで長さは7mm以下のものとする。スパイクピンの数は11本以内とする。

⑤スタートについては、旧ルールを適用し、同一選手の2回の不正スタートで失格とする。

- ⑥ スターティングブロックの使用は、決勝のみとする。
- ⑦ 1・2年生はスタンディングスタートでもよいが、必ず静止すること。3年以上はクラウチングスタートのみとする。
- ⑧ 走高跳のバーの上げ方は、練習を見て審判員が判断する。また、着地は足からとし、腰・尻・背中からの着地は失敗とみなす。
- ⑨ 走幅跳、ジャベリックボールの予選試技は3回。トップ8により決勝3回の試技を行う。
- ⑩ 混合リレーは、男女各2名で走順は問わない。
- ⑪ リレーのメンバーは、同所属内のABチームあるいは、混合チーム間で変更できない。
- ⑫ 80mHは1レーン9台で実施し、規格は次のとおりとする。（男女とも同規格）
 - ・高さ：0.7m（6年） 0.6m（5年）
 - ・スタートラインから第1ハードルまでの距離：13m・ハードル間の距離：7.0m
- ⑬ 走幅跳出場者は2m60cm以上が跳べること。それ以下は計測しないことがある。

6 表彰について

第1位から3位までの入賞者には賞状とメダルを、4位から8位までの入賞者には賞状を準備する。チームごとに分けるので、チームごとに取りに来る。全競技終了後、最優秀選手男女の表彰を行う。

7 一般的注意事項

- (1) 抗議は陸上競技規則の通りとする。
- (2) 大会出場時の急病・事故については応急処置以外の責任は負わない。
- (3) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。

8 個人情報取り扱いについて

- (1) 主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、日本陸上競技連盟個人情報保護方針に基づき取り扱う。尚、取得した個人情報は大会の記録発表、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (2) 大会映像の著作権は主催者に帰属し、主催者または主催者が承認した第三者がテレビ放送及びインターネット上で動画配信を行うことがある。
- (3) 大会の映像・写真・個人記録等は、主催者または主催者が承認した第三者が大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム等の宣伝材料、テレビ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。